

○ 1月の主な行事予定

日	曜	絵	主な行事
1	木		元日
2	金		
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木	○	始業式 避難訓練
9	金	○	課題テスト ⑥生徒会専門委員会
10	土		
11	日		
12	月		成人の日
13	火	○	
14	水	○	
15	木	○	学級役員任命式 45分日課
16	金	○	45分日課
17	土		
18	日		
19	月	○	45分日課
20	火	○	学校安全の日 45分日課
21	水	○	⑥なし
22	木	○	育成型選抜願書〆切
23	金	○	
24	土		
25	日		
26	月	○	⑥木5
27	火	○	古紙回収 45分日課
28	水	○	古紙回収
29	木	○	
30	金	○	⑥生徒会専門委員会
31	土		

☆ 2月の主な行事 12日基礎学力テスト  
16日～18日学年末テスト 20日学校安全の日

【新たなスタート!】

新年あけましておめでとうございます。充実した冬休みが過ぎましたか。いよいよ2026年の幕開けです。今年の目標はもう決まっていますか。時間はあっという間に過ぎていきます。目標もなく、時間に流される生活を過ごしてしまうと、「あのときもっとこうしておけばよかった」と後悔を残すことになりかねません。目指すゴールが明確であればあるほど、向上の道が拓かれ、人は成長していくものです。

みなさんは、あと3ヶ月で最高学年を迎えるとともに、この1年間が自分自身との勝負の年となります。3年生の先輩方に続き、城西中の屋台骨を背負っていかねばなりません。学習に、部活動に、生徒会活動にと、みなさんがどれくらい頑張れるかが、城西中を活気のある素晴らしい学校にできるかどうかのカギになります。

大人になって振り返ったとき、「あの1年間はホントよく頑張ったよなあ」と言い合える1年間にできるよう、みんなで協力し合って新たな歴史を刻んでいきましょう。そして、自らの希望する進路をめざして真っ直ぐ突き進んで下さい。2026年を「城西中の仲間」とともに、最高の1年間にしましょう!

忘れない。防災意識!

今年の1月17日(土)で、阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震による被害)が発生して31年になります。あのときは約6500名の方がお亡くなりになりました。みなさんにとっては東日本大震災のときの津波被害や能登半島地震のほうが記憶に新しいかもしれません。能登半島地震は1月1日の夕方、阪神・淡路大震災は1月17日早朝です。どちらも火を使い家事に取りかかっている時間帯で、大きな火災が起こったとても寒い冬の時期でした。丁度、今がその時期です。「いざ」というときに慌てることがないよう、そして、自分・家族のかけがえのない生命を守るためにも、日頃から備えをしておくことが大切です。もう一度防災について家族の人とも話し合ってみてほしいと思います。

また、寒い時期でもあり、ついつい注意を怠り交通事故等に合う危険がたくさん潜んでいます。「注意一秒、ケガ一生」というように、一瞬の油断がとにかえしのつかないことを引き起こしかねません。注意を怠らず無理のない生活を心がけてください。3学期も元気に過ごしましょう。

【根気強さ】～諦めない強さ～

勉強するためにはいろいろな必要な性格がありますが、第一に必要なのは「根気」です。つまり長く続けることができる性格です。楽なことは誰でもできます。苦しいけれども、最後までやり抜くのが根気です。横から見ていて根気がよいと思われる本人は、決して自分で根気がいいとは思っていません。本人は面白いから続けていたり、続けることが苦痛にならない状態になっているのです。根気強くやろうと思ってやっているのではないのです。それが本人にとっては普通なのです。しかし、その人達も最初は続けるのが難しかったり、辛かったりして、やめようと思ったこともあるはずですが、それでも根気強く努力をしている内に、問題が解けたり、成績が上がったりして報われる嬉しさが生まれたのです。そして、それが当たり前になり、今度は問題が解ける喜びや面白さが、勉強への取り組みを更に向上させていったのです。だから根気を作ろうとするならば地道に勉強を続け、先生にも聞き、問題が解ける喜びを実感し面白さに変えていくことです。また、各教科への興味を見つけ出し好きなことに集中することも一つです。面白くなり、面白くてたまらなくなったら、その時、そのことに関しては、人を驚かすぐらいに根気強くなっているのです。

勉強を続けるコツとしては、単調なことを続けていると、誰でも飽きが出るし、疲れが出ます。これは生理的欲求で無視できません。体の方が、これ以上できないとあくびや背伸びをして休息を要求してくるのです。これの防ぎ方には、二つの方法があります。まず一つは、勉強の内容に変化をつけること。読む勉強ばかりでなく、書くことも入れることです。書くのも文章ばかりでなく、表を考えて書いてみるというように変化をつけると疲労度もだいぶ減ってくるものです。もう一つは、短い時間で仕上げるよう計画することです。時間を制限すれば、のんびりしては、あっという間に予定時間が終了するから、どうしても集中しなければならなくなります。中学校時代では、同じ勉強を長時間するのは、勉強の計画としては得策ではありません。その基準は1コマ、入試と同じ50～60分間です。